申請日	2022/6/22

登録日	2022/7/12

腫瘍名	大腸がん

申請医師	衛藤　英一

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　3時間15分

大腸　BRAF+Cmab

クールの概要

1週間で1クール
第１日目に投与。ﾋﾞﾗﾌﾄﾋﾞ、ﾒｸﾄﾋﾞは連日投与

1クール　　2クール
1　　8　　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1								8				
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓								↓				
②	側管1	デキサート ポララミン 生食	6.6mg 5mg 50mL	点滴	15分	↓								↓				
③	側管2	アービタックス 生食	400mg/m2 500ml	点滴	120分	↓												
④	側管3	アービタックス 生食	250mg/m2 250ml	点滴	60分									↓				
⑤	側管4	生食	250mL	点滴	60分	↓								↓				
⑥		ビラフトビ	300mg/body/日	内服	1日1回													

注意事項

BRAF変異症例、原則、2次治療以降が対象
投与前に心エコーを行うこと
重度のIR予防のため、アービタックス投与中および投与終了後少なくとも1時間はバイタルサインをモニターするなど、患者の状態を十分に観察すること
投与中、定期的にCK、Creの検査を行うこと
投与中、定期的に皮膚および眼の状態を確認し、適宜、皮膚科および眼科受診を検討する

参考文献

1）N Engl J Med 2019;381:1632-1643
2)各薬剤添付文書（アービタックス2020年2月改訂版、ビラフトビ2020年11月改訂版）
3)大腸癌治療ガイドライン医師用2022年版

申請日	2022/6/22

登録日	2022/7/12

腫瘍名	大腸がん

申請医師	衛藤　英一

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　3時間15分

大腸　BRAF+MEK+Cmab

クールの概要

1週間で1クール
第１日目に投与。ﾋﾞﾗﾌﾄﾋﾞ、ﾒｸﾄﾋﾞは連日投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで
②	側管1	デキサート ポララミン 生食	6.6mg 5mg 50mL	点滴	15分
③	側管2	アービタックス 生食	400mg/m2 500ml	点滴	120分
④	側管3	アービタックス 生食	250mg/m2 250ml	点滴	60分
⑤	側管4	生食	250mL	点滴	60分
⑥		ビラフトビ	300mg/body/日	内服	1日1回
⑦		メクトビ	90mg/body/日	内服	1日2回

注意事項

BRAF変異症例、原則、2次治療以降が対象
投与前に心エコーを行うこと
重度のIR予防のため、アービタックス投与中および投与終了後少なくとも1時間はバイタルサインをモニターするなど、患者の状態を十分に観察すること
投与中、定期的にCK、Creの検査を行うこと
投与中、定期的に皮膚および眼の状態を確認し、適宜、皮膚科および眼科受診を検討する

参考文献

1）N Engl J Med 2019;381:1632-1643
2)各薬剤添付文書（アービタックス2020年2月改訂版、メクトビ2020年11月改訂版、ビラフトビ2020年11月改訂版）
3)大腸癌治療ガイドライン医師用2022年版

申請日		登録日	2017/5/10
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

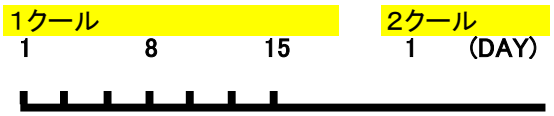
レジメン名

1回に要する時間：　1時間30分

大腸　Cap+BV

クールの概要

3週間で1クール
第１日目に投与。ゼローダは2投１休



	種別	薬剤	用量	用法	時間
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで
②	側管1	ベバシズマブ生食	7.5mg/kg 100ml	点滴	90分
		カペシタビン	2000mg/㎡日	内服	2投1休

注意事項

カペシタビン
1.36㎡未満：2400mg/日　　1.36～1.66㎡未満：3000mg/日
1.66～1.96㎡未満：3600mg/日　　1.96㎡以上：4200mg/日
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。

参考文献

申請日		登録日	2014/08/20(2017/05/10)
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　1時間　　45　分

大腸　CPT11-2W

クールの概要

2週間が1クール
DAY1･に投与。DAY8･は休薬

1クール　2クール

1　8　1　8　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	↓				↓								
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓				↓								
②	側管1	ハロペリドールデキサート生食	0.75mg 9.9mg 50mL	点滴	15分	↓				↓								
③	側管2	イリノテカン生食	150mg/m2 250ml	点滴	90分	↓				↓								

注意事項

アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること

参考文献

申請日		登録日	2017/5/9
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　48時間　分

大腸　FL

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	↓								↓			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	デキサート 生食	6.6mg 50ml	点滴	15分	↓								↓			
③	側管2	ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ 生食	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
④	側管3	フルオロウラシル 生食	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑤	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

申請日		登録日	2017/5/9
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　49時間　30分

大腸　FL+BV

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3						1	2		
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	ベバシズマブ 生食	5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓								↓			
③	側管2	デキサート 生食	6.6mg 50ml	点滴	15分	↓								↓			
④	側管3	ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ 生食	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑤	側管4	フルオロウラシル 生食	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑥	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。

申請日		登録日	2017/5/9
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　時間　分

大腸　FOLFIRI+BV

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	↓								↓			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から側管4終了時まで持続	↓								↓			
②	側管1	ベバシズマブ 生食	5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓								↓			
③	側管2	ｱﾛｷｿﾋﾟﾚﾝﾊﾟﾝﾃｸ デキサート	0.75mg 9.9mg	点滴	15分	↓								↓			
④	側管3	塩酸イリノテカン 生食 （側管4と同時投与）	150mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑤	側管4	ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ 生食 （側管3と同時投与）	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑥	メイン	フルオロウラシル 生食	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑦	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること。
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。

申請日		登録日	2017/5/9
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　時間　分

大腸　FOLFIRI+Pmab

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3						1			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	[illegible]ク デキサート	0.75mg 9.9mg	点滴	15分	↓								↓			
③	側管2	パニツムマブ 生食	6mg/kg 100ml	点滴	60分	↓								↓			
④	側管3	塩酸イリノテカン 生食 （側管4と同時投与）	150mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑤	側管4	ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ 生食 （側管3と同時投与）	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑥	メイン	フルオロウラシル 生食	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑦	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

RAS遺伝子野生型患者　　皮膚障害対策を施すこと。
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること。
パニツムマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目以降の投与は30分投与も検討可能。
パニツムマブはブドウ糖との混合を避ける。 最終濃度として10mg/mLを超えないこと。希釈後は6時間以内に使用することインラインフィルター0.2又は0.22ミクロンを使用

参考文献

大腸癌治療ガイドライン医師用　2019年度版
J Cancer Res Clin Oncol 2012;138:65-72

申請日		登録日	2017/5/9
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　49時間　分

大腸　FOLFIRI

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から側管4終了時まで持続	↓								↓					
②	側管1	ｱﾛｷｼﾋﾟﾛﾝﾊﾟｸ　デキサート	0.75mg 9.9mg	点滴	15分	↓								↓					
③	側管2	塩酸イリノテカン 5%ブドウ糖 （側管3と同時投与）	150mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓					
④	側管3	ﾚﾎﾞﾎﾘﾅｰﾄ 5%ブドウ糖 （側管2と同時投与）	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓					
⑤	側管4	フルオロウラシル 生食	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓					
⑥	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間														

注意事項

アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること

申請日	2020/9/24

登録日	2020/9/28

腫瘍名	大腸がん

申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　時間　分

大腸　IRI+Pmab

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与

1クール　　2クール

1　8　14　1　(day)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	↓								↓			
①	ﾒｲﾝ	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	パロノセトロンバック デキサート	0.75mg 9.9mg 50ml	点滴	15分	↓								↓			
③	側管2	ﾍﾞｸﾃｨﾋﾞｯｸｽ 生食	6mg/kg 100ml	点滴	60分	↓								↓			
④	側管3	イリノテカン 生食	150mg/m2 250ml	点滴	90分	↓								↓			

注意事項

RAS遺伝子野生型患者　皮膚障害対策を施すこと。
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること。
パニツムマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目以降の投与は30分投与も検討可能。
パニツムマブはブドウ糖との混合を避ける。 最終濃度として10mg/mLを超えないこと。希釈後は6時間以内に使用することインラインフィルター0.2又は0.22ミクロンを使用

参考文献

GERCOR試験（Annals of Oncology 24;412-419,2013）
JCO Precis Oncol 4:898-911　2020ASCO
WJOG6510G

申請日		登録日	2006/5/2(更新2017/05/09)
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他(

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　3時間　　15　分

大腸　IRIS+BV

クールの概要

4週間が1クール
DAY1･15にイリノテカン投与
TS-1は2週間投与2週間休薬

1クール　　2クール
1　8　15　22　1　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1				8				15				22				1
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓				↓				↓				↓				↓
②	側管1	ベバシズマブ 生食	5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓				↓				↓				↓				↓
③	側管2	デキサート パロノセトロンバック	9.9mg 0.75mg	点滴	15分	↓				↓				↓				↓				↓
④	側管3	イリノテカン 生食	100mg/㎡ 250ml	点滴	90分	↓				↓				↓				↓				↓
		S-1		内服																		

注意事項

S1標準投与量
1.25㎡未満:80mg/日
1.25～1.5未満:100mg/日
1.5㎡以上:120mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。

参考文献

申請日		登録日	2006/5/2(更新2017/05/09)
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他(

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　2時間　　分

大腸　IRIS

クールの概要

4週間が1クール
DAY1･15にイリノテカン投与
TS-1は2週間投与2週間休薬

1クール　　2クール
1　8　15　22　1　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓ ↓ ↓
②	側管1	ﾃｷｻｰﾄ パロノセトロンバック	9.9mg 0.75mg	点滴	15分	↓ ↓ ↓
③	側管2	イリノテカン 生食	125mg/㎡ 250ml	点滴	90分	↓ ↓ ↓
④		S-1		内服		

注意事項

S1標準投与量
1.25㎡未満:80mg/日
1.25～1.5未満:100mg/日
1.5㎡以上:120mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること

参考文献

申請日		登録日	2017/5/10(更新2017/11/15)
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他(

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　時間　分

大腸　mFOLFOX6+BV

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与

1クール　2クール

1　2　3　1　(day)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3						1			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	ベバシズマブ 生食	5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓								↓			
③	側管2	[illegible] デキサート	0.75mg .9.9mg	点滴	15分	↓								↓			
④	側管3	オキサリプラチン 5%ブドウ糖 (側管5と同時投与)	85mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑤	側管4	レボホリナート 5%ブドウ糖 (側管4と同時投与)	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑥	側管5	フルオロウラシル 生食	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑦	メイン	フルオロウラシル 生食 ヘパリン	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。
オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要(メーカー確認)

申請日		登録日	2017/5/10
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　時間　分

大腸　mFOLFOX6+Pmab

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3						1			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	パロノセトロンバックデキサート	0.75mg 9.9mg	点滴	15分	↓								↓			
③	側管2	パニツムマブ 生食	6mg/kg 100ml	点滴	60分	↓								↓			
④	側管3	オキサリプラチン 5%ブドウ糖 （側管5と同時投与）	85mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑤	側管4	レボホリナート 5%ブドウ糖 （側管4と同時投与）	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑥	側管5	フルオロウラシル	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑦	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

RAS遺伝子野生型患者　皮膚障害対策を施すこと。
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること。
パニツムマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目以降の投与は30分投与も検討可能。
パニツムマブはブドウ糖との混合を避ける。 最終濃度として10mg/mLを超えないこと。希釈後は6時間以内に使用することインラインフィルター0.2又は0.22ミクロンを使用
オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要（メーカー確認）

参考文献

大腸癌治療ガイドライン医師用　2019年度版
J Clin Oncol 2010;28:4697-4705

申請日		登録日	2017/5/10
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　時間　分

大腸　mFOLFOX6

クールの概要

2週間で1クール
第1日目に投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3						1			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から了時まで	↓								↓			
②	側管1	[illegible]ク デキサート	0.75mg 9.9mg	点滴	15分	↓								↓			
④	側管3	オキサリプラチン 5%ブドウ糖 （側管4と同時投与）	85mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑤	側管4	レボホリナート 5%ブドウ糖 （側管3と同時投与）	200mg/m2 250ml	点滴	120分	↓								↓			
⑥	側管5	フルオロウラシル	400mg/m2 50ml	点滴	5分	↓								↓			
⑦	メイン	フルオロウラシル 生食	2400mg/m2 2000単位	シュアフューザー使用	46時間												

注意事項

アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要（メーカー確認）

申請日		登録日	2020/2/22
腫瘍名	大腸がん	申請医師	長島　敦

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

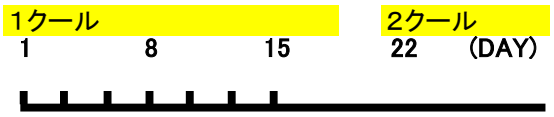
レジメン名

1回に要する時間：　3時間45分

大腸　mXELIRI+BV

クールの概要

3週間で1クール
第１日目に投与。ゼローダは2投1休



	種別	薬剤	用量	用法	時間
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで
②	側管1	ベバシズマブ 生食	7.5mg/kg 100ml	点滴	90分
③	側管2	デキサート パロノセトロン バック	9.9mg 0.75mg 50mL	点滴	15分
④	側管3	イリノテカン 生食	200mg/m2 500ml	点滴	90分
		カペシタビン	1600mg/㎡ 日	内服	2投1休

注意事項

2次治療以降
UGT1A1遺伝子多型の測定を実施する。 *6ホモ接合体、*28ホモ接合体、*6*28ダブルヘテロ接合体ではイリノテカン開始量150mg/㎡とする。
カペシタビン
1.36㎡未満：1800mg/日1.36～1.66㎡未満：2400mg/日1.66～1.96㎡未満：3000mg/日1.96㎡以上：3600mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。

参考文献

AXEPT試験　Lancet Oncol, March 16,2018, online

申請日	2025/11/10

登録日	2025年11月

腫瘍名	大腸がん

申請医師	尾関　伸司

通常の投与期間	PDもしくは有害事象出現までの無期限、(術前・術後の場合、12ヶ月まで)

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　　時　間分

大腸　Phesgo-3w

クールの概要

3週間が1クール

1クール　　2クール

1 2 3 4 5 6 7　　22　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
①	メイン	初回 フェスゴ配合皮下注 IN	15mL	皮下注 大腿部	8分以上	↓																					
②	メイン	2回目以降 フェスゴ配合皮下注 MA	10mL	皮下注 大腿部	5分以上										↓												

注意事項

Her2陽性・RAS遺伝子野生型の大腸がん
術後・手術不能または進行・再発の結腸・直腸がんに対して、本剤を単剤で使用する場合に用いる。
フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤、オキサリプラチン及びイリノテカン塩酸塩による治療歴のある患者
投与中は3か月毎に心機能評価をする
前回投与日から6週間以上超の時は、改めて初回投与量で投与する。
大腿部に皮下投与すること(同一箇所へ繰り返し投与は避け、前回の注射部位から少なくとも2.5cm離すこと)
25Gの針を使用

参考文献

1)TRIUMPH試験　Nakamura Y,et al. Nat Ned 2021;27:1899-1903
2)フェスゴ配合皮下注添付文書2023年11月改訂版

申請日		登録日	2011/1/27(更新2017/05/10)
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他(

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：2時間　30分

大腸　Pmab

クールの概要

2週間が1クール
DAY1投与、DAY8休薬

1クール　　2クール
1　　8　　1　　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓　　↓
②	メイン	パニツムマブ 生食	6mg/kg 100ml	点滴	60分	↓　　↓

注意事項

RAS遺伝子野生型患者　　皮膚障害対策を施すこと。
パニツムマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目以降の投与は30分投与も検討可能。
最終濃度として10mg/mLを超えないこと。希釈後は6時間以内に使用すること
インラインフィルター0.2又は0.22ミクロンを使用する。

参考文献

申請日		登録日	20017/05/09

腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間:　2 時間　15分

大腸　SOX+BV

クールの概要

3週間が1クール
第1週目にオキサリプラチン投与
DAY1～14にTS-1投与

1クール　2クール
1　8　15　1　(DAY)

	種別	薬剤	用量	用法	時間	↓								↓			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓								↓			
②	側管1	ベバシズマブ 生食	7.5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓								↓			
③	側管2	ﾃﾞｷｻｰﾄ パロノセトロンバック	9.9mg 0.75mg	点滴	15分	↓								↓			
⑤	側管4	ｵｷｻﾘﾌﾟﾗﾁﾝ 5%ブドウ糖	130mg/㎡ 250ml	内服	120分	↓								↓			
		S-1	80～120mg /日	内服	1日2回												

注意事項

S1標準投与量
1.25㎡未満：80mg/日
1.25～1.5未満：100mg/日
1.5㎡以上：120mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要（メーカー確

参考文献

申請日		登録日	20017/05/09

腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

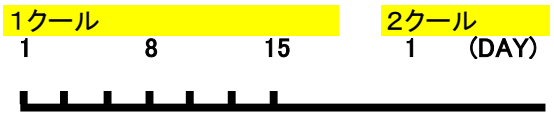
レジメン名

1回に要する時間:　2 時間　15分

大腸　SOX

クールの概要

3週間が1クール
第1週目にオキサリプラチン投与
DAY1～14にTS-1投与



	種別	薬剤	用量	用法	時間	↓								↓			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで												
②	側管1	ｱｷｻﾘﾌﾟﾗﾁﾝ パロノセトロンバック	9.9mg 0.75mg	点滴	15分	↓								↓			
④	側管3	ｵｷｻﾘﾌﾟﾗﾁﾝ 5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖	130mg/㎡ 250ml	点滴	120分												
		S-1	80～120mg /日	内服	1日2回												

注意事項

S1標準投与量
1.25㎡未満：80mg/日
1.25～1.5未満：100mg/日
1.5㎡以上：120mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要（メーカー確認）

参考文献

SOFT試験

申請日	2022/3/25

登録日	2022年4月12日

腫瘍名	大腸がん

申請医師	三原　康紀

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

レジメン名

1回に要する時間：　1時間　　30　分

大腸　TAS102+BV

クールの概要

4週間が1クール
ロンサーフは5日間投与2日休薬
5日間投与2日休薬
2週間休薬

	種別	薬剤	用量	用法	時間	1クール 1	8	15	2クール 29 (DAY)
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓		↓	↓
②	側管1	ベバシズマブ 生食	5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓		↓	↓
		ロンサーフ	70mg/㎡/day	内服		day 1～5		day 8～12	day 1～

注意事項

原則、3次治療以降
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。

参考文献

Lancet　Oncol2017;18:1172-1181
Lancet　Oncol2020;21:412-420

申請日		登録日	2017/5/10
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

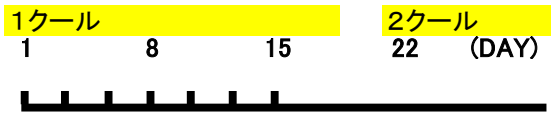
レジメン名

1回に要する時間：　3時間45分

大腸　XELOX+BV

クールの概要

3週間で1クール
第１日目に投与。ゼローダは2投１休



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1					8				15				22			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓													↓			
②	側管1	ベバシズマブ 生食	7.5mg/kg 100ml	点滴	90分	↓													↓			
③	側管2	デキサート パロノセトロンバック	0.75mg	点滴	15分	↓													↓			
④	側管3	オキサリプラチン 5%ブドウ糖	130mg/m2 250ml	点滴	120分	↓													↓			
		カペシタビン	2000mg/㎡ 日	内服	2投1休																	

注意事項

カペシタビン
1.36㎡未満：2400mg/日　　1.36～1.66㎡未満：3000mg/日
1.66～1.96㎡未満：3600mg/日　　1.96㎡以上：4200mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
ベバシズマブは初回投与の忍容性が良好であれば2回目の投与は60分で行ってもよい。2回目の投与において忍容性が良好であればそれ以降の投与は30分間投与とすることができる。
ベバシズマブはブドウ糖との混合を避ける。オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要（メーカー確認）

参考文献

申請日		登録日	2017/5/10
腫瘍名	大腸がん	申請医師	建持　岳史

通常の投与期間	ヶ月、　　年、PDもしくは有害事象出現までの無期限、その他（

投与スケジュール

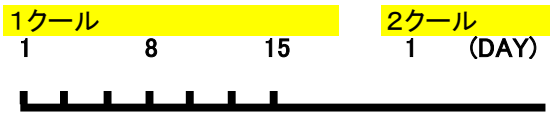
レジメン名

1回に要する時間：　2時間15分

大腸　XELOX

クールの概要

3週間で1クール
第１日目に投与。ゼローダは2投１休



	種別	薬剤	用量	用法	時間	1					8			15	1			
①	メイン	生食	100ml	点滴	開始から終了まで	↓									↓			
②	側管1	デキサート パロノセトロンバック	9.9mg 0.75mg	点滴	15分	↓									↓			
④	側管3	オキサリプラチン 5%ブドウ糖	130mg/m2 250ml	点滴	120分	↓									↓			
		カペシタビン	2000mg/㎡ 日	内服	2投1休													

注意事項

カペシタビン
1.36㎡未満：2400mg/日　　1.36～1.66㎡未満：3000mg/日
1.66～1.96㎡未満：3600mg/日　　1.96㎡以上：4200mg/日
アプレピタント併用時はデキサメタゾンを3.3mgに減量すること
オキサリプラチンのブドウ糖での前後フラッシュは不要（メーカー確認）

参考文献